

演奏家の耳に届くホールの響

ステージで演奏する「耳の達人」たちに聞く

田部京子 Kyoko Tabe ● ユーアニスト

小松長生 Chosei Komatsu ● 指揮者

真嶋雄大 Yudai Majima ● 音楽評論家(司会)

コンサートは、演奏家、聴衆、ホールその他の条件がすべて揃って初めて成立するものである。であれば、演奏家こそホールをどのような視点で捉えているのか、あるいはどのようなこだわりがあるのか、ユーアニストの田部京子さん、指揮者の小松長生氏に大いに語っていただいた。



座談会は音楽之友社(東京・神楽坂)で行われた

Round-table talk
about the sound
in the Japanese halls
—Kyoko Tabe,
Chosei Komatsu,
Yudai Majima

ピアノはある程度残響がある
ホールの方が弾きやすい

真嶋 初めに、演奏家としてお好きな、あるいは演奏しやすいホール(以下、主にH)はありますか？

小松 まずはサントリーH、札幌コンサートH・Kitara、そしてほかが福井出身ということでもないんですが(笑)、ハーモニーホールふくいですね。サントリーに関しては舞台裏からステージ上での音のミックス、お客様との親近感、それと周りの環境もすべてが一級品という感じがします。Kitaraは北海道の星空じゃないですが、空から音が降って来るようです。ふくいは音響の質が高い。また舞台裏がロビー以上に広くて控室もすごい広さなんです。そういうことも含め、総合的にみて世界一級であると認識しています。

田部 そうですね、協奏曲では、サントリーH、すみだトリフォニーH、東京オペラシティ、大阪シンフォニーHなどでしようか。ステージ上で弾いているとピアノの音の抜



小松長生(こまつ・ちようせい) 東京大学美学芸術学科卒。イーストマン音楽院大学院指揮科卒。エクソン指揮者コンクール優勝。2011年9月、著書リーダーシップは「第九」に学べ(日本経済新聞社出版社)を上梓。パッファロー管エクソン派遣指揮者、ホルティモア響アソシエイト、キッチナー・ウォーター響、武生国際音楽祭などの音楽監督、東京フィル正指揮者などを経て、現在コスタリカ国立響桂冠指揮者、セントラル愛知響名誉指揮者。金城学院大学教授として後進の指導にもあたっている。

けが良く、心地良い響きが耳に返って来てとても気持ちがいいですね。また北海道出身だからということではありませんが(笑)、Kitaraがいいですね。透明感がありつつ、豊かな響きに包まれるようなホールの音響はもちろん素晴らしいんですが、外に出たときの緑に囲まれた静寂など、東京の都心にはない良さがあるって、しばらく音楽に浸っていただける空気感などトータルで好きですね。

リサイタルですと、こよなく愛しているのは浜離宮朝日H。とても細かなニュアンスまで客席に届くことで、良い集中力を持つて聴いて頂いているのがステージの上でも感じられて、相乗効果で一体感が生まれます。リサイタルシリーズも10年目にな

ります。それから、紀尾井H、いずみHなども好きですね。

真嶋 海外での印象的なホールはありましたか？

小松 この4月にベルリン・フィルハーモニーHで、『第九』を振ったんですが(※)、サントリーHと共通する感じがありません。またお客様が気にならないんです。集中できるというか、磁場が良いというか……。

田部 ベルリン・フィルハーモニーHは、小ホール(1000人)も同じような造りですが、すり鉢状の中央に舞台があるので、弾いていると1階の客席は近いですが、音響は本当に素晴らしいです。

真嶋 そのお客さまですが、演奏者の方た

ちは、どのように感じていらっしゃるか？

田部 協奏曲の時などは、舞台スペースの都合上、ピアノは本当に舞台の崖っぷちっというか、手前ギリギリにピアノが置かれることがあります。最前列中央のお客さまが近くて、その上あまりにモゾモゾ動かれたりすると、やはりどうしても視界に入ってしまうですね……(笑)。

小松 それは気になりますよね。何かゼロハンみたいな音がする時もある……(笑)。またホールによつては、お客さまが入ってガラッと変わる所とあまり変わらない所があつて、やっぱりいいホールといわれている所は、あまり変わらないですね。お客さまが入ったから音を吸収するとよく言いますが、ぼくはあまり関係ないと思えますね。

真嶋 国によつても聴衆の気質などは、変わりますか？

小松 北米やラテン系、ヨーロッパもある程度ですけど、全然違いますね。例えばドイツはやはり落ち着いて聴いてくださる感



田部京子 (たべ・きょうこ)

東京芸術大学附属高校在学中、日本音楽コンクール最年少第1位。東京芸術大学に進学後、ベルリン芸術大学に留学。同大学、大学院を首席卒業。エピナル国際コンクール第1位、ミュンヘン国際音楽コンクール(ARD)第3位ほか多数入賞。これまでに、村松賞(音楽部門大賞)、新日鉄音楽賞などを受賞。国内外の主要オーケストラ、トップアーティストとの共演も多い。演奏活動の一方で、上野学園大学教授(演奏家コース)も務める。30枚以上リリースされているCDは国内外で特選盤に選出され、2008年度レコードアカデミー賞(室内楽部門)、2012年度リーダーズチョイス(レコード芸術誌)器楽部門第1位、協奏曲部門第2位など高い評価を得ている。今年CDデビュー20周年を迎える。オフィシャルHP: <http://www.kyoko-tabe.com/> (公演情報)

①米子労音 2013年度第3回例会
(日時・会場) 6月5日18時45分(米子市文化ホール) (曲目) シューベルト「ピアノ五重奏曲《ます》」(共演) カルミナ四重奏団(問合せ) 米子労音 ☎ 0859-34-3173

②田部京子 with カルミナ四重奏団
(日時・会場) 6月6日18時30分(岡山市市民会館) (曲目) シューベルト「ピアノ五重奏曲《ます》」(共演) カルミナ四重奏団(問合せ) 岡山音協 ☎ 086-224-6066

③田部京子 BB ワークス第3回
(日時・会場) 6月8日15時(浜離宮朝日ホール) (曲目) ベートーヴェン「ピアノ・ソナタ第20番」、ベートーヴェン「ピアノ・ソナタ第21番《ワルトシュタイン》」、ブラームス「ピアノ五重奏曲」(共演: カルミナ四重奏団) (問合せ) 朝日ホールチケットセンター ☎ 03-3267-9990

④田部京子 with カルミナ四重奏団
(日時・会場) 6月9日15時(サラマンカホール) (曲目) メンデルスゾーン「無言歌集」より《ペニスのゴンドラの歌 第2番》、シューマン《子供の情景》より《トロイメライ》、シューベルト「ピアノ五重奏曲《ます》」(共演: カルミナ四重奏団) (問合せ) サラマンカホールサービスセンター ☎ 058-277-1110

⑤田部京子&矢部達哉&古川展生「ソロ・デュオ・トリオ!」
(日時・会場) 6月22日15時(宗像ユリックスハーモニーホール) (曲目) シューマン《トロイメライ》、ベートーヴェン「ピアノ三重奏曲第7番《大公》」(共演: 矢部達哉 vn. 古川展生 vc) 他(問合せ) 宗像ユリックス ☎ 0940-37-1483

⑥第3回読響カレッジ
(日時) 7月26日20時(文京シビックホール) (曲目) モーツァルト「ピアノ協奏曲第20番」(共演: 円光寺雅彦指揮読売日響) (問合せ) 読売日響ホールチケットセンター ☎ 03-3562-1550

じがあります。アメリカはもう「よっしゃーっ!」って感じで、僕も大好きなんですけれど、最後の音が鳴り終わる前に祭り騒ぎになることもあったり、それもまたいいんです。フットボールが大リーグみたいなノリで……(笑)。ラテン系になるともっと激しいですし、欧と米の対照って素敵だなあと思っています。

田部 そう考えると、日本の中でも差があるような気がします。北と南隣の県であっても全然違ったりしますね。ラテン系といえば、印象に残っているのが沖縄です。本当に、最後の音が終わるやいなやワーッと盛り上がって、ロビーでのサイン会もちよつと経験したことのないような大騒ぎでビックリしました(笑)。

小松 そういえば、久留米や福井の三国などで共演させていただきましたね。確か日本フィルとチャイコフスキーの第一番。

田部 その三国では忘れられない思い出がありましたよね。最初の序曲の後が協奏曲で、ピアノを脇から出してきたのですが、普通舞台転換の時は客席が少しザワザワするのですが、まったくカサツとも音が

しないんです。随分静かなお客様だなあと思っていたのですが、私が舞台へ出たら拍手があり、ゆっくりお辞儀して顔を上げたから、何と皆さん私に向かってお辞儀をされていたんです。本当に印象的なお客様でした。

真嶋 ピアノとホールの相性ということについてはいかがですか?

田部 ピアノは、打鍵した瞬間から音が減衰する楽器なので、ある程度残響があるホールの方が弾きやすいのは事実です。残響のないホールでは、音と音との間を途切れないように何とか繋いでいかなければなりません。音質が魅力的で音の伸びが良い楽器であれば、残響が少なくても十分なですが、残響がないと、その楽器の良し悪しが逆によくわかってしまいます。

同じ残響の長さでも、透き通った響きではなく、すごく濃厚な響きが長いホールの場合、ピアノ自体の音質が膨らみ過ぎると、音の芯、核が聴こえにくくなります。ペダルを減らしたりなどしてコントロールしますが、そのような響きのホールの場合は、より癖のないシンプルな楽器の方が相性と

してはいいのかなという気がしますね。ステージ上でピアノの置き場所によってもかなり響きは変わります。

バランスよりも時間差の方が問題なんです

真嶋 オケの場合で、ホールによって苦労されたご経験はありますか?

小松 管楽器の後ろに座っている人の音が遅れて聴こえてくるんです。あれが一番困るんです。だからバランス面は苦労するんですが、また音がホールの天井の方にあつてなかなか戻ってこないホールも結構あつたりするので、そうするとピアニストの方なんて、聴いていて頭がグチャグチャにならないかなと思つて……(笑)。

真嶋 ステージなどもあまり大き過ぎると、奥に入った管とかティンパニとか、少し早く出ないと、合わないじゃないですか。それはやっぱり細かく指示されるんですか?

小松 そういう時は真面目に指揮しないとね(笑)。つまり指揮にきっちり合わせるように、また誤差がないように、小さい動

作で振るんです。

田部 崖つぶちに座るピアニストとしては指揮者だけが頼りです……(笑)。

小松 だからバランスよりも時間差の方が問題なんですね。いいホールついでいうのは、それがいいんですよ。もうオケでも室内楽のようにやれますよね。

真嶋 なるほど、やっぱりいいホールついでいうのは、音が分散せずに中心に向かつて凝縮するような親密感がある、ということですよ?

小松 そうだと思えます。オケの方もソリストが聴こえないというのは一番困る。いいホールというのは、オケの方からもピアノが聴こえるんですよ。特にティンパニなピアノを弾かれていても、ちよつとオケが大きいと聴こえなくて苦労することもありますね。オケ側からもソリストが聴こえるかどうかは重要な問題です。

ホールによってはテンポ感も調整する必要があります

真嶋 お二人はいろんなホールで演奏され

ていると思いますが、昔に比べて良くなったホールなどはありますか？

小松 すみだトリフォニーホールはどんどん良くなったホールですね。改善もされてるんですよ。ですけど、実感します。

真嶋 確かにピアノがものすごく綺麗に聴こえますね。

田部 そうなんです。あの大きな空間に立ち昇るような音の透明感、本当に気持ちいいんです。

小松 オケの音もすごく変わりました。5年ほど10年ほどにいろんな工夫や改装もされたので、想像以上に響きや音色が全然違うんです。印象的なのは、あの響きや音色が全然違うんですか？

田部 1970年代に建てられて音響に定評のあった石橋メモリアルホールなども、3年前に新しく建て替えられてさらに良くなりました。豊潤な響きで、フレームスのピアノ作品、モーツァルトの協奏曲などもレコーディングしました。

小松 名古屋のしらかわホールもすばらしいですね。ここではセントラル愛知も演奏していますし、また名古屋フィルやアンサンブル金沢もやっています。それと石川県立音楽堂もいいホールですね。

田部 そうですね、あとは静岡音楽館AOL、岐阜サラマンカH、所沢ミュージズHなども良いですね。

真嶋 岡谷のカノラHも、大きめの割には本当に親密感があつて、大きなオケでも緻密なアンサンブルが聴けるんです。

小松 もっとたくさんあるんだけど、名前

が挙がらないってマズいよね(笑)。

田部 あり過ぎて思いだせない……(笑)。

小松 田部さん、恨まれるよ(笑)。

真嶋 ホールによつて、木管や金管と弦などのバランスに苦労されたりすることはありますか？

小松 自分がホームとしている所だと、逆にいじらずにオケに任せたりしますね。日本のホールに対して言うことはあまりないけれど、北米のいろんな超一流のオケは気持良くなると「わーっ」と鳴るんで、その辺のコントロールがね(笑)。気持が乗ると「わーっ」と鳴るんですけど、その辺のコントロールが、やっぱりバランス調整を綿密にするんですか？

小松 そうですね、必ず20分くらいはバランス・チェックしますね。逆に完全にデッドなホールをホームにしてるオケもあるわけですよ。そういう所では、やっぱりバランス調整を綿密にするんですか？

田部 そういうホールをホームにしているオケの人たちが、ツアーなどで他のホールに行く時には、やっぱりバランス調整を綿密にするんですか？

小松 そうですね、必ず20分くらいはバランス・チェックしますね。逆に完全にデッドなホールをホームにしてるオケもあるわけですよ。そういう所では、やっぱりバランス調整を綿密にするんですか？



真嶋雄大(まじま・ゆうだい) 音楽評論家。「音楽の友」「レコード芸術」などの音楽専門誌に執筆。「ピアニストの系譜」を上梓。ONTOMO MOOK「ピアノ&ピアニスト」監修者(ともに音楽之友社刊)

んです。八分音符で書いてあるのを付点八分音符とか、八分音符を四分音符とか、それで「なんか長くないですか」って休憩時間に聞いてみたら、彼らは「ぼくらで残響を作ってるんです」って(笑)。

田部 そうしたくなる気持ち、ピアニストとしては良くわかりますね(笑)。

真嶋 つまり、本当にデッドなホールだと相当苦労されるんですね。

小松 コスタリカ交響楽団はそれに近いです。だから他のホールに行くと本当にすごい音がします。そういうところで厳しさに晒されますか？

真嶋 これは、コスタリカ交響楽団の音は全然違うんですけど、やっぱり響きや音色が全然違うんです。あの響きや音色が全然違うんですか？

小松 そう、だからいいホールでやればやるほど、弓使いが複雑になるんです。ホルンが悪いと、弓使いはベタベタ、ガーガーでいくしかない。だから弓使いを見ると、大体そのオケのホールがどのくらいのものかがわかる。

田部 それは、ピアノにも言えることだと思います。微妙なニュアンスや余韻を出したいと思つても、例えば巨大な空間のホールでピアノ

一台、まったくデッドで、求める音が自分の耳に返らず、客席にも伝

わらない場合、ダイナミックレンジを大胆にしたり、ペダリングやテンポ感なども自然と微調整が必要になります。

真嶋 これはかなり無茶ぶりの質問なんですけど、特定の作曲家の作品を演奏するのに適したホールなんてありますか？ ベルトーヴェンに合つてるとか……。

田部 例えばですが、古典でモーツァルトのように音階が多く出てくるものは、速い二度の音型の響きがかぶつてしまふほど残響が長いと、細かい粒立ちが聴こえず、もたついて聴こえるのでキツイですね。逆に

ロマン派以降は、多少響きが多くても弾き方でコントロールすると大抵は問題ありません。

真嶋 近年、指定管理者制度が始まつて、ホールとのお付き合いで何か感じられていることなどはありますか？

小松 成功している所は新しいアイデアを出しながらも、プロフェッショナルな人の意見を採り入れてますよね。どこかに丸投げしたり、あるいは自分が独り善がりです。突き進んだり、この両極端も現実にはあると思いますけど、そのバランスをきちんとやっているホールもあるわけですから、そういう所は逆にやりやすくなったんじゃないかと思つています。今までは両極端が生じやすい状況だったんですけど、新体制になつてその中間のいいバランスが取れるようになってきたのではないのでしょうか。

真嶋 長時間、ありがたございました。

※編集部注:ベルリンフィルハーモニーホール開設50周年記念、日独親善第九演奏会、オーケストラは、ブランデンブルク州立管弦楽団フランクフルト